

「乾燥耐性トウモロコシ MON87460 系統」に係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての御意見・情報の募集結果について

1. 実施期間 平成23年1月13日～平成23年2月11日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 5通
4. 御意見・情報の概要及び遺伝子組換え食品等専門調査会の回答

	御意見・情報の概要	遺伝子組換え食品等専門調査会の回答
1	<p>様々な問題があると思う。 長期的に食し続けたことがないのに安全だとおっしゃることにも不安。 遺伝子操作だから問題ないというでしょうが、強制的に突然変異をおこすよりも不自然な技法だと思う。思わぬしっぺ返しが怖いので少なくとも私は口にしたくない。 国内栽培をした場合の在来種との交雑の問題も心配。 耐性がある分、繁殖力も強いのでは？ コボレダネ等で畑でもない場所でも育ててしまったらどうするか？ 特定外来植物でさえ駆除しきれないのに、わざわざ駆除対象を増やすことになるのではないか？ 花粉で簡単に交雑できる植物なのだから、耐性のついた雑草だって簡単にできてしまうのではないか？ 各地域で昔から大切に細々とつないできた固有種ともあっけなく交雑してしまう。 そもそも大規模経営を目指した農業は日本には国土の性質上そぐわない。</p>	<p>食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会では、科学的知見に基づき遺伝子組換え食品の安全性評価を行っております。今後とも、科学的知見に基づき、客観的かつ中立公正に評価を行っていきたいと考えています。</p> <p>遺伝子組換え作物の環境に与える影響の評価については、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」（カルタヘナ法）に基づき、関係省庁（農林水産省及び環境省）において実施されていると承知しております。いただいたご意見については、関係省庁にお伝えします。</p>

	<p>広大で平らな土地が一面にあるわけではない。 山や川をつぶしてまで平らにする必要もない。 日本農業には差別化して生き残れるだけのものがあるのだから、他人をうらやんで自分を滅するようなことはしなくてよい。</p>	
2	<p>とうもろこしでも大豆でも遺伝子組み換え食品なんて、いりません。というよりも、まず、どうしてそういう未知の食品を平気で、国民に大きな報道もなくパブリックコメントなんて募集するのかわかりません。 政府やかんりょうさん、もっとしっかりしてください。 日本を背負って立ちたくて政治やってるんじゃないですか？</p>	<p>食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会では、科学的知見に基づき遺伝子組換え食品の安全性評価を行っております。今後とも、客観的かつ中立公正に評価を行っていきたくと考えています。 また、パブリックコメントは、専門調査会で審議した評価書（案）について、国民の皆様からご意見や科学的知見等に係る情報を収集し、必要に応じて、最終的な評価結果に反映させるために報道機関等にも公表して行っているものです。今後とも、適切にパブリックコメントを行っていきたくと考えています。</p>
3	<p>遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準にしたがった審査の結果、非遺伝子組み換えトウモロコシと比較して安全性を損なわない。よって安全であるという評価結果には、不安が残ります。 非遺伝子組み換えトウモロコシ（従来のトウモロコシ）は何百年と人類が食してきたものです。 したがって、そこに安全基準を設ける必要性はないでしょう。 しかし、遺伝子組み換えトウモロコシは、見た目がトウモロコシであっても設計図が違ふのです。 似て非なるものであるのに、基準が寛容すぎると考えます。 当該トウモロコシを食べることによってうける影響を年の単位で追</p>	<p>遺伝子組換え食品については、これまで経験上安全に食されてきた既存の食品と比較が可能なものについて、導入遺伝子により生じた形質の変化に着目し、安全性評価を行います。この考え方は、国際的にも認められているものです。本トウモロコシについては、「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に基づき、挿入された遺伝子の安全性、その遺伝子により生産されたタンパク質の安全性、構成成分の変化などの評価を行ったところ、非組換えトウモロコシと比較して新たに安全性を損なうおそれのある要因は認められず、ヒトの健康を損なうおそれはないと判断しています。</p>

	<p>跡調査すべきではないかと考えます。</p>	
4	<p>遺伝子組み換え食品は食べたくありません。日本国内の表示をもっとしっかりやってください。しっかり書かれていないので日本国民は選ぶ権利すらないです。EU では表示なしは不使用です。</p>	<p>遺伝子組換え食品の表示に関するご意見については、担当機関である消費者庁に伝えます。</p>
5	<p>日本は世界最大のトウモロコシ輸入国であり、その輸入量の9割をアメリカに依存していると聞きます。お菓子里に遺伝子組み換えトウモロコシを使用しているという情報もあります。</p> <p>「遺伝子改変作物を生まれてからずっと食べ続けて成人したらどうなるか？」</p> <p>この研究を行ったのは、スコットランド人のローワット研究所の遺伝子研究の権威であった、アーバッド・プースタイ博士。</p> <p>その研究内容は、ラットの子供を2つのグループに分け、一方には普通のジャガイモ、もう一方にはGMO（遺伝子改変）ジャガイモを与え続けて育ててみた。果たしてどんな大人に成長するか？というもの。</p> <p>結果は、実に分かりやすく顕著なもので、身体は小型化。肝臓と心臓が小型化。免疫が弱い（寿命が短い）。際立って脳が小さい（知能が低い）。上記の研究結果を見ても、枯葉剤にも強い作物を人間が投与して、まったく問題がないわけがない。</p> <p>人間が抗生物質を摂り続けると免疫がなくなるように、GMO食品を摂り続けたらどんな健康被害が起こるかわかりません。</p> <p>起こってからでは遅いのです。</p>	<p>ご指摘の実験については、レクチン遺伝子を導入した遺伝子組換えジャガイモを与えたラットに免疫機能や腸管への影響がみられたというものですが、この実験については、多くの不備が指摘されています。</p> <p>実験の設計や分析についても不十分な点が多く、これらの影響は、タンパク質不足の餌によるストレスや、じゃがいもの品種、餌の低消化性によっても考えられることから結論は出せないとのコメントとともに、この実験に関する報告が医学専門誌に掲載されました。なお、これまでに御指摘の遺伝子組換えジャガイモの安全性評価の申請は行われておらず、我が国では、安全性が確認されていない遺伝子組換え食品を流通させることはできないことから、御指摘の遺伝子組換えジャガイモが流通することはありません。</p> <p>食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会では、科学的知見に基づき遺伝子組換え食品の安全性評価を行っています。今後とも客観的かつ中立公正に評価を行っていきたいと考えています。</p> <p>なお、参考までに、本実験については、厚生労働省のホームページの中（遺伝子組換え食品 Q&A D-9）でも紹介されております。</p> <p>・厚生労働省 遺伝子組換え食品 Q&A: http://www.mhlw.go.jp/topics/idsenshi/qa/qa.html</p>